

公民館だより 月号

公民館レポート

良寛さんの「優しい心と美しい字を」

9月7日(水)、「第12回良寛さんの心書道展」の審査会を開催し、10日(土)から22日(祝)までの間には、中央公民館に全作品の展示を行いました。

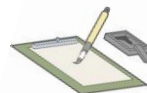
今年はお出雲崎小学校 184 点、お出雲崎中学校 82 点の計 266 点の応募があり、気持ちのこもった力作が並びました。特別賞は下記の皆さんが受賞しました。

○お出雲崎町長賞

小川 純平さん(中3)

○お出雲崎町議会議長賞

小川 桂司さん(小6)



○お出雲崎町教育長賞

平沢龍聖さん(小1)

佐藤 旬さん(小2)

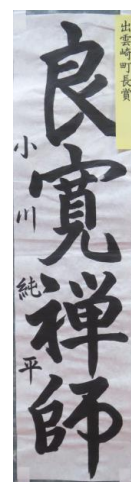
諸橋瀬良さん(小3)

三輪太輝さん(小4)

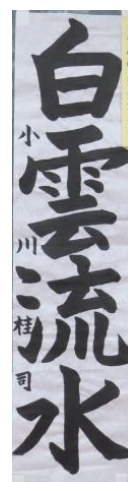
中澤真依さん(小5)

藤屋珠李さん(中1)

下條優大さん(中2)



出雲崎町長賞



出雲崎町議会議長賞

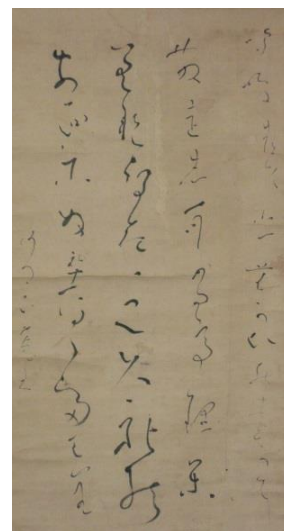
新たな良寛遺墨が収蔵されました!!

お出雲崎町大字尼瀬に居住されていた福井家(現千葉県在住)より「良寛の顕彰に役立てて欲しい」と貴重な良寛作品旋頭歌『あさづくひ』をご寄贈いただきました。

『あさづくひ』は、良寛 60 代の書の特徴が表れていることから、乙子神社時代の作に位置づけられています。乙子神社時代は、良寛の作品の中でも、芸術の円熟さが伺える時代と言われていました。また、作品に付属しているタグには、良寛記念館開館時に展示した記録が残されていました。『あさづくひ』は 51 年ぶりに良寛記念館の門をくぐったこととなります。

良寛記念館は日本一の良寛作品の収蔵数です。この度、新たな良寛作品『あさづくひ』が加わったことで増々、企画展等が充実すると喜んでおり、近く展示に向けて計画中です。

現在は『良寛の名品展』～館所蔵の名品から新発見まで～を開催しており、10月23日(日)にはギャラリートークを開催します。ご来館をお待ちしています。



良寛遺墨『あさづくひ』

10月の公民館事業開催予定

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| ○ちぎり絵教室 11日(火)・18日(火) | ○書道教室 13日(木)・20日(木)・27日(木) |
| ○英会話教室 13日(木)・27日(木) | ○第26回奥の細道天の河俳句大会 14日(金) |
| ○お出雲崎総合大学 15日(土)・25日(火) | ○お出雲崎ツズ 17日(月)・31日(月) |
| ○さわスポ教室 18日(火) | ○ノーメディア・デー 20日(木) |
| ○ガーデニング教室 29日(土) | |



公民館関係イベント開催予定

未来の夢子ども体験講演会



海の手配師

石垣幸三さん
に決定!!



10月27日(木)に『未来の夢子ども体験講演会』を開催します。

今年の講師は、沼津港深海水族館館長の石垣幸二さんに決定しました。演題は「深海生物を世界のアイドルに!」と題し、世界初となる深海生物の捕獲や展示に至るまでの様子を中心にお話しいたします。

石垣さんは、これまでに世界30ヶ国を訪問し、3,700種を超える海洋生物の捕獲・輸送・飼育に奔走し、その活動が「情熱大陸」など年間200本を超えるマスメディアで報道されています。

詳細日程等は、広報いずもぎき10月号をご覧ください。なお、当日は一般席も開放いたしますので、皆さまお誘い合わせの上、ご来場ください。

生涯学習フェスティバル



11月2日(水)、3日(祝)の2日間、芸術・文化の祭典『生涯学習フェスティバル』を開催します。

今年も「作品展示」や「ステージ発表」「健康づくり」等、盛りだくさんの内容となっておりますので大勢の皆さまのご来場をお待ちしています。

なお、10月17日(月)まで展示作品を募集していますので、出品希望の方は中央公民館(☎78-2250)にお申込みください。詳細日程等は、後日配布する案内チラシをご覧ください。

出雲崎総合大学

10月15日(土)午後1時30分から北国街道妻入り会館において、新潟大学の岡村鉄琴教授による「文字文化と良寛を中心」と題した講演会を開催します。

一般町民の方の当日参加も可能です。(参加無料)皆さまのお越しをお待ちしています。

北国街道妻入り会館

北国街道妻入り会館では、10月12日(水)から11月20日(日)までの間、「出雲崎の繁栄と文化展」と題した展示をします。

北前船寄港地として繁栄した出雲崎の様子や、良寛を中心とした文化を約30点の資料で紹介します。

図書館だより(新刊案内)



中央公民館



危険なビーナス …東野 圭吾 著

弟が失踪した。彼の妻・楓は、明るくしたたかで魅力的な女性だった。楓は夫の失踪の原因を探るため、資産家である弟の家族に近づく。兄である伯朗は楓に頼まれ協力するが、時が経てば経つほど、彼女に惹かれていく。



ドッグファイト …楡 周平 著

物流の雄、コンゴウ陸送経営企画部の郡司は、入社18年目にして営業部へ異動した。担当となったネット通販大手スイフトの合理的すぎる企業姿勢に反抗心を抱いた郡司は、新企画を立ち上げ打倒スイフトへと動き出す。

町立図書館(海岸公民館)



みかづき …森 絵都 著

「私、学校教育が太陽だとしたら、塾は月のような存在になると思うんです」

昭和36年。人生を教えることに捧げた、塾教師たちの物語が始まる。胸を打つ確かな感動。山あり谷あり涙あり。



治部の礎 …吉川 永青 著

豊臣家への「義」か、はたまた自らの「野心」からなのか。霸王信長の死後、天下人を目指す秀吉のもと、綺羅星の如く登場し活躍する武将たちを差し置いて、最も栄達した男、石田三成。彼の「眼」は戦国を優に超えていた。

※この他の新着図書は、新着一覧を中央公民館・町立図書館(海岸公民館)それぞれに掲示しておりますのでご覧ください。



奥の細道むすびの地・大垣市で「芭蕉サミット」開催

公民館長 佐藤 亨

読書に親しみ、美、芸術に触れるいい季節を迎えている。

このコラムで幾度か取り上げた「奥の細道芭蕉サミット」が、今年10月初に岐阜県大垣市で開催された。芭蕉の紀行文「奥の細道」は日本の古典文学の中でも最も親しまれている作品の一つである。

芭蕉は元禄2年(1689)3月27日東京・千住にて旅の日記の書き初めである「矢立の初め」として『行く春や 鳥啼(なき)魚の目は泪』と春の過ぎ去るのを惜しんで詠んだ。約5か月にわたる関東・東北・北陸路(出雲崎へは7月4日弥彦から到着)の漂泊の旅の終りが大垣市で、その総距離は約240キロにも及ぶ。大垣市は奥の細道の「むすびの地」と言われ、観光スポットに芭蕉を当てている。むすびの句が『蛤(はまぐり)の ふたみにわかれ 行秋ぞ』である。

芭蕉が大垣に入ると俳人や親しい人たちが日夜訪問し、まるで死んで蘇った人に会うように喜んで芭蕉をいたわってくれた。そして、9月6日芭蕉は旅の疲れがとれないままに、伊勢の遷宮を拝むために舟に乗って旅立つ。【写真1】(市内水門川と舟)「むすびの句は「離れがたい蛤のふたと身がわかれていくように、お別れの時が来た。私は二見浦へ旅立っていく。もう秋も過ぎ去ろうとしている」の意だ。時に芭蕉46歳。



【写真1】

大垣市での芭蕉の史跡としては、市の重文で1300年の歴史がある明星輪寺(みまのうらじょうりんじ)がある。【写真2】芭蕉は、参詣のおり「鳩

の声 身に入(しみ)わたる 岩戸哉」と詠んでいる。モヤの中の寺院はひとときしづく、往時をうかがわせるようだった。

芭蕉は旅の終りをなぜ大垣としたのか? なぜ、何回も旅に出たのだろうか? という素朴な疑問が出る。旅の終りを大垣としたことについては、芭蕉の門人が大垣に多いこと(門人に宛てた複数の書簡から大垣と推定できる)「むすびの地記念館」(学芸員) 又、何



【写真2】

度も旅にということは、一つは、「月日は百代の過客(旅人)」という奥の細道序章から「人生は旅である」と考えていたと思われること。又、芭蕉が思いを寄せていた先人(西行や李白・杜甫など)が漂泊の旅に生き、死したように、旅が芭蕉の想いと重なる部分があること。そして、「俳諧」の持つ価値観の確認や旧跡での歴史への想い、詩心を各地の俳人と交わすことでもあったのではと推察できる。

奥の細道の旅が終わった後の芭蕉は、京都・近江・江戸・故郷の伊賀・奈良・大坂に赴く。そして、大坂で体調を崩し病状が悪化して死去する。51歳。『旅に病んで 夢は枯野を かけ廻る』が芭蕉最後の句であり、終えんに及んでも旅に枕する気持ちが読みとれる。

文学は様々な面を想起、触発させるからたのしい。今開催中の「古代オリエント美術の愉しみ」(県歴博)、「良寛の名品展」(良寛記念館)などの美、芸術品も秋にふさわしく創造性豊かに鑑賞したいものである。

今月の一句



〈西乃越句会〉

萌えいでしばかりの草も刈られけり

羽黒町 太古 誠一

続く田に月光かかり煌めきぬ

川西 遠藤 比呂女

〈越後出雲崎 渚会〉

かはりし仏に捧ぐ今年米

大門 栗本 君

人の渦面窠れして秋の蝶

尼瀬 小黒 大

〈出雲崎小学校児童の俳句〉

新米のできたてごはんおいしいな

四年生 高橋 美月

新米が光って見えるふしぎだな

四年生 仙海 遙大

新米はとてもあまくておいしいな

四年生 寺尾 優之介

秋あかね夕日の色と同じ色

五年生 末武 柑菜

赤とんぼお空の上でもかけっこだ

五年生 高橋 菜央

アキアカネ

夕日に光ってキラキラと

五年生 南波 日和里



運動の秋はウォーキングから ～第10回町民ウォーキング大会～



10月2日(日)、晴天の下、第10回町民ウォーキングをきずなIXと同日開催しました。石油記念公園を出発して参加者の体力レベルに合わせたコースをウォーキングしました。当日は通常のウォーキングのほか、2本のポールを使って運動効果を高めるノルディックウォーキングの講習と体験もでき、新しいウォーキングに挑戦する良い機会となりました。

出雲崎の自然と歴史を一度に楽しむことができる町民ウォーキングをスタートに、運動の秋はいよいよ本番です。いろいろな運動やスポーツに挑戦して、健康的な秋にしましょう。

柳津町でスポーツ交流 ～姉妹都市交流事業～



9月22日(祝)、姉妹都市である柳津町を会場にスポーツ大会が開催され、町民同士の交流を行いました。体育協会から野球、卓球、ゲートボールが参加し、各会場で熱戦を繰り上げました。普段なかなか会えない姉妹都市の町民とスポーツを通じて触れ合い、絆を深めることができました。

姉妹都市締結30周年を迎える来年に向けての機運を高めることができたスポーツ交流となりました。



お知らせ



次の日程はイベントのためアリーナが使用できません。

- ・10月26日13時～10月27日17時
- ・11月2日～11月3日 終日

10月の「トレーニング教室」日程

10/12, 19, 26 毎週水曜日 19:30～21:00